

甲斐市立双葉西小学校 自己評価書 (前期)・後期)

平成22年 7月16日 (金) 作成

校長 「金子 初男」 記述者 職名 (教頭)「保坂 秀人」

学校教育目標

「自ら学び、自ら考える子どもの育成」

- ・ よく考え、判断できる子ども (知) -かしこく
- ・ 思いやりのある子ども (徳) -ゆたかに
- ・ じょうぶでがんばる子ども (体) -たくましく

具体的児童の目標

- ・ 学ぶ楽しさを知ろう
- ・ 本と友だちになろう
- ・ たくさんの友だちと遊ぼう

学校経営方針

- ・ 生命尊重、人間尊重の精神を基盤にして相互理解とふれあいを深め、一人ひとりを大切にし、個性・能力・特性に応じる教育への配慮をし、心豊かな人間性を目指す学校づくりに努める。
- ・ 新しい教育課題に対応した教育課程の改善を図り、相互にひびき合う教育活動を通じて、学校教育目標の具現化をめざし、特色ある学校づくりに努める。
- ・ 子どもを媒体とした父母、地域社会、関係機関と教職員による連携を深め、地域の特性を生かした「開かれた学校」づくりに努める。
- ・ 教職員自らが研修に励み、一時間一時間の授業を大切にし、共に学び共に育む実践を通して、人間として教師としての資質の向上を図り、信頼される学校づくりに努める。
- ・ 教育環境づくりに努め、豊かな感性と知性を育てる学校づくりに努める。

1 全体評価

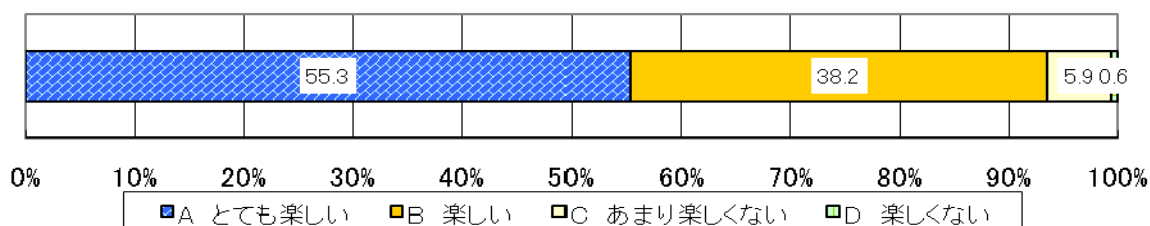
○ 全体的には、教職員の自己評価の集計結果も児童アンケートの集計結果も概ね肯定的な項目が多かったことは、学校教育が充実した上に実践されていると考えられる。

具体的に見ていくと教職員自己評価の集計結果においては、Ⅰ学校教育目標・学校経営について、Ⅱ学校運営について、Ⅲ学習指導について、Ⅳ生徒指導について、Ⅴ地域との連携について、Ⅵ学校の特色に関してのどの項目についても、肯定的な意見である A 評価と B 評価で 8割を越す結果となった。

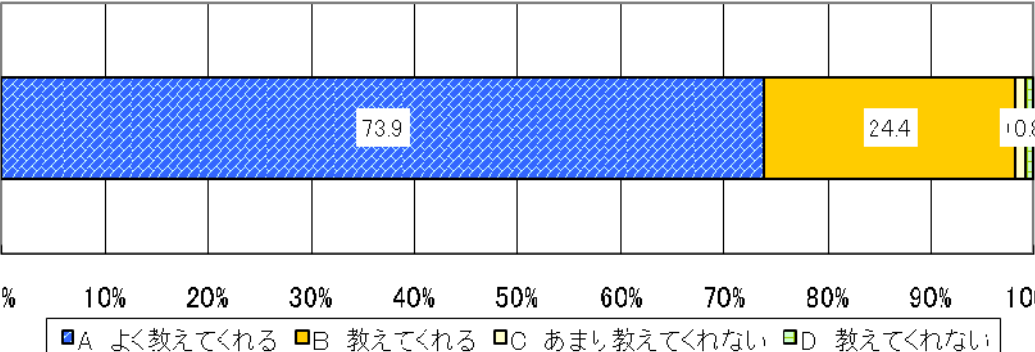
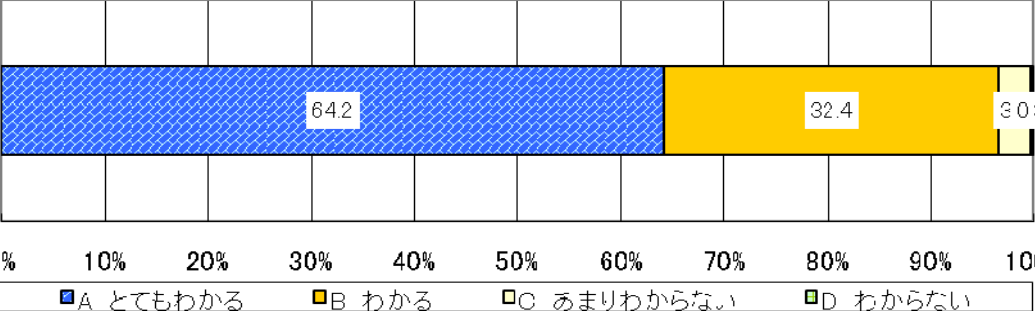
また、児童アンケートの集計結果から「Q1 学校が楽しいですか」の質問項目に 9割強の児童が A、B 評価をしていることから、概ね楽しい学校生活を送っていると考えられる。しかし、C、D 評価の児童も若干いることには留意したい。

今後は、肯定的な評価については継続発展するように、課題については改善が図られるように取り組んでいきたい。

Q1 学校が楽しいですか。



2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）											
I 学校教育目標に関して・学校経営について											
達成状況	<p>7項目のうち6項目でA評価が高くなるといった結果である。</p> <p>1（学校教育目標）と3（教育活動計画）の項目についてはA評価が100%となった。これは、年度当初に校長の学校経営方針を職員に徹底したことにより、校長の意図が教職員に浸透し、方針に沿った教育課程の実施に努力している現れであると考えられる。</p> <p>また、7の項目（福利厚生）については、B評価が他の項目と比べて割合が高い結果となった。</p>										
改善策	<p>○7の項目（福利厚生）については、「管理職は配慮しているが、残業や持ち帰り仕事をせざるを得ない。」と言う声がある。指導要領改訂や生徒指導等、本校のみならず一般的に教職員の多忙化が進む中、なかなか十分な福利厚生的なことは行えていない現実ではある。会議の精選や効率化に取り組むことで時間を確保したい。また、職員室のなごやかな雰囲気についてもより継続していきたい。</p>										
II 学校運営について											
達成状況	<p>11項目のうち、すべての項目でA、B評価合わせて9割を超える評価であった。</p> <p>ただ、2（危機管理）と8（校内研究）の項目については、B評価が5割以上で、A評価よりB評価の方が多かった。</p>										
改善策	<p>○2の項目（危機管理）については、4月の職員会議で提案をして職員の理解を図ったが、事件・事故は突発的で予測が難しいため、職員もB評価をつけたのではないかと考えられる。今後も避難訓練等の実施や事件・事故の具体的な事例を話し合い、学ぶ姿勢を持つことにより、個々の危機管理意識を高めたいと考える。</p> <p>○8の項目（校内研究）では、今年度から新しい研究テーマによる研究が始まり、まだ見えないところが多いためB評価が多かったと思われる。今後、授業研究も入ってくるので、次第に主体的な関わりが増えることが見通される。</p>										
III 学習指導について（児童生徒用アンケート等も含めて）											
達成状況	<p>日頃から、教職員は児童に対して「わかる・楽しい授業」を行うための努力・工夫を行っていることが窺われる。教職員としてこの項の設定間に対しては、全体的な意識としてA評価と回答しにくい面が窺われる。児童アンケートの集計結果から考えると（下のグラフ参照）教職員が努力・工夫していることが客観的に見て取ることができる。</p> <div style="text-align: center;"> <p>Q5 学校の授業が楽しいですか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A とても楽しい</td> <td>51.7%</td> </tr> <tr> <td>B 楽しい</td> <td>39.3%</td> </tr> <tr> <td>C あまり楽しくない</td> <td>7.3%</td> </tr> <tr> <td>D 楽しくない</td> <td>1.7%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	評価	割合	A とても楽しい	51.7%	B 楽しい	39.3%	C あまり楽しくない	7.3%	D 楽しくない	1.7%
評価	割合										
A とても楽しい	51.7%										
B 楽しい	39.3%										
C あまり楽しくない	7.3%										
D 楽しくない	1.7%										

	<p style="text-align: center;">Q6 先生はわかりやすく勉強を教えてくださいますか。</p>  <p style="text-align: center;">0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p style="text-align: center;">■A よく教えてくれる ■B 教えてくれる □C あまり教えてくれない ■D 教えてくれない</p>
	<p style="text-align: center;">Q7 国語の授業の内容はわかりますか。</p>  <p style="text-align: center;">0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p> <p style="text-align: center;">■A とてもわかる ■B わかる □C あまりわからない ■D わからない</p> <p>なお9の項目（特別支援）で若干 C 評価があるが、これは教職員の人数により、支援に入れない学級もあることのためであると考えられる。</p>
改善策	<p>○人事評価における授業参観などを活用することにより、教職員の指導力をさらに向上させ、自信を持って A 評価を付けられるようにしたいと考える。</p> <p>○きめ細かな指導教員や市支援員の活用を工夫し、教師の支援を必要とする児童へのきめ細かな対応を考える。</p>
IV	<p>生徒指導について（児童生徒用アンケート等も含めて）</p>
達成状況	<p>全体的にどの項目も肯定的な回答である。日頃からの教職員のきめ細かな指導や学校体制が整備されていることにより、問題行動の早期発見・早期対応がなされているため、全般的にどの項目も高い評価がされている。</p> <p>3の項目（生き方教育）については B 評価が多かったが、教職員の意識としてキャリア教育や進路指導といった文言がイメージされ、日々行っている子どもたちへの「生き方教育」をイメージとして捉えられている傾向があるのではないかとと思われる。</p> <p>5の項目（生徒指導共有）については、担任や担当が一人で対応するのではなく、学年や担当、管理職等複数で対応が行われているという意見である。</p>
改善策	<p>○3の項目（生き方教育）については、「やまなしの教育振興プラン」にある小学校におけるキャリア教育の指導内容の理解（例えば日々の係や当番活動なども体系的なキャリア教育に含まれるなど）を図り、学年に応じた実践をしていきたいと考える。</p> <p>○5の項目（生徒指導共有）については、今後も校内生徒指導委員会等の組織を活用し、情報の共有と共通指導を図っていきたいと考える。</p>
V	<p>地域との連携について</p>
達成状況	<p>全体としては概ね良好な結果を示している。</p> <p>地域や保護者との関わりの設問のため、教職員の努力が明確に表れない面もあるので、B 評価をしてしまう傾向が 1（地域人材）と 2（情報収集）の項目には見られる。</p>

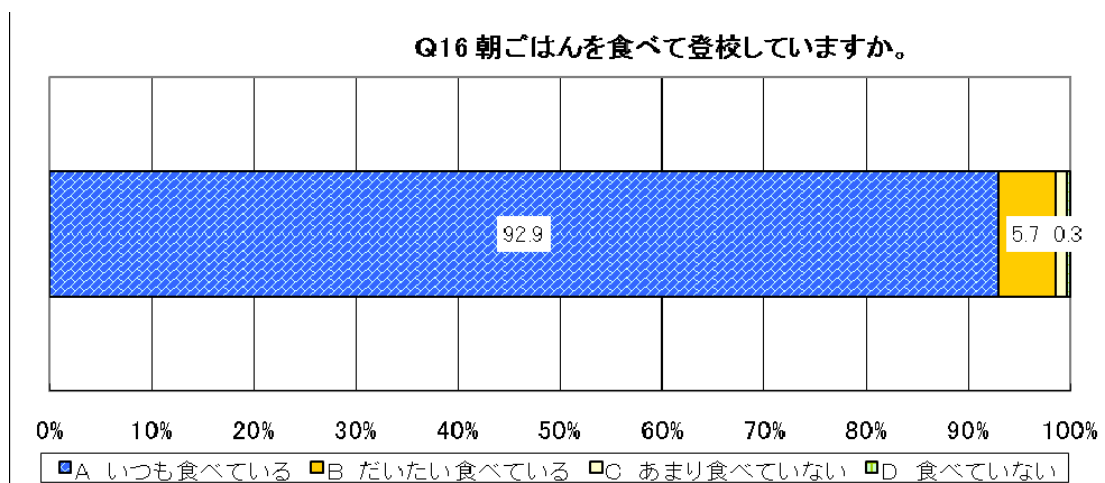
改善策
 ○1の項目（地域人材）では，教育課程に従い，連携できる単元では地域の施設を活用したり，地域の人材に学ぶことを取り入れる実践を今後取り入れていこうとしている姿勢が「地域の教育力を生かす指導」であることを再度確認したい。
 ○2の項目（情報収集）については，PTAの学年部会等の会議だけでなく，普段から保護者等と信頼関係を築く中で情報収集を心がけるようにしたいと考える。

VI 学校の特色に関して

達成状況
 6項目あるどの項目も，A評価が高い割合を占めている。このことは本校では特色ある学校教育が行われていることの現れであると思う。共通理解を図りながら継続した指導をしていきたい。

児童アンケートの「16 朝ごはんを食べて登校していますか。」という回答のA評価（いつも食べている）が全体集計で92%を占めている点なども，日頃からの教職員の保護者への呼びかけに対して，保護者がそれに応えている結果だと考えることができる。

（下のグラフ参照）



3 まとめ

<成果>

- ・ 学校教育目標に基づき，適切な学校運営ができている。
- ・ 特色ある学校作りができている。

<課題>

- ・ 概ね良い評価を受けてはいるが，P→D→C→Aサイクルを意識し，さらなる改善に向けて取り組み，よりよい学校作りを目指すこと。